第73回卒業式

73期生新たなるステージへ

今年度の卒業式は昨年同様、新型コロナウイルス感染症対策のため、3年生、保護者、教職員のみ列席し、前日の卒業式予行と表彰式は2年生同席、1年生は教室でオンライン参加にて行いました。また、当日は卒業式ライブ配信を行い、3年生との別れを惜しみました。

3月1日、第73回卒業式を挙行しました。国歌演奏後、卒業証書授与があり、担任が一人一人心を込めて呼名。312人の卒業生の返事は、旅立ちへの強い決意の思いが込められたものでした。

池田校長は式辞の中で、福沢諭吉の「泥中の君子花たれ」と、赤﨑勇先輩の「限界を感じたときが始まり」の言葉を贈り、挑み続けることの大切さを伝えました。

在校生代表の安和留ゾヤさんは送辞の中で、トルコの元大統領の「未来は空にある」という言葉を引用し、「空はどこまでも高く、その空のように高い目標を持ち、自分自身を輝かせて未来を切り開いてください。」と力強く決意を述べました。

その後、LHRでは3年間の思い出をそれぞれの言葉で語り、涙あり笑いありの和やかな時間となったようです。

新しいステージでの73期生のますますの活躍を期待しています。

卒業生代表の増田海亜さんは答辞の中で、周囲への感謝を述べました。そして、「これまでの私たちらしく、柔軟に視点を変え、時には耐え忍びながらも解決策をみつけ出し、どんな困難をも乗り越えていきましょう。私たちならできると信じています。」と力強く決意を述べました。

卒業生から在校生へ

挑戦した先に

二組　鬼塚菜々子

私は甲南高校での三年間を通して多くの貴重な経験をし、自分を大きく成長させることができました。勉強・部活動・課題研究に追われ途中で投げ出したくなった時もありましたが、今振り返るとあの時最後まで諦めずやり抜いたからこそ今の自分があるのだと思います。そして、友達や先生方、家族の支えがあったから楽しく充実した高校生活を送ることができたので、周囲の人達には感謝の気持ちでいっぱいです。

私が高校生活を送る上で大事にしてきたことは「挑戦すること」です。私は一年生の時に学びにUKに挑戦するか悩んでいました。英語が得意ではないし、先輩から「UKは大変」と聞いていたからです。そんな時、友達に「何もやっていないのに何で自分にはできないって思うの。何事もやってからしか分からない」と言われました。私はこの言葉を聞き挑戦するしかないと決心しました。実際UKは大変で私にはできないと何度も思いました。それでも、一緒に頑張ったUK生や多くの人のおかげで最終的に高校生国際シンポジウムに出場でき、希望の進路実現にも繋がりました。皆さんには迷ったらとにかく挑戦してほしいです。結果的に失敗だったと思うこともあります。それでも挑戦することでしか自分は成長できません。甲南高校には皆さんの挑戦を支えてくれる環境が整っています。ぜひ様々なことに挑戦して自分が成長できたと思える高校生活を送ってほしいです。周囲の人達への感謝の気持ちを忘れず甲南生らしく夢に向かって真っ直ぐ頑張ってください。

チャレンジ

五組　大山　永遠

私は甲南での三年間でたくさんのチャレンジをしました。必死に勉強し、狭き関門をくぐり抜けてやっとの思いで甲南生になったのだから色濃く充実した三年間にしたいと思ったからです。

しかし一筋縄でいかないのが甲南生活です。人はチャレンジした分だけ努力という名の苦労を負わなければいけません。私は生徒会や学びにUKの課題研究、そして軽音楽部での活動に加えて下宿生活にもチャレンジしていましたが、それと同時に重い予習と課題、そして容赦のない授業での学習を両立させるのはとても大変で何度も心が折れそうになったのをよく覚えています。そんな怒涛の甲南生活を乗り切れたのは、共に頑張ってくれる友人、生徒のことを思って時には嫌われ役を買って出てくださる先生方、そしていつも影ながらどこかで支えてくれる家族の存在があったからだと思います。本当にありがとうございました。またチャレンジはもちろん良いことも与えてくれます。私はこの三年間のチャレンジで自分に自信がつきました。大人への扉を開く前に立派な武器が手に入りました。

これを読んだ在校生の皆さんは自分の生活を一度振り返ってみてください。

「人はいつでも頑張り出したその瞬間から成長できる」ある先生の大好きな言葉です。人生でたった一度きりの高校生活をチャレンジすることでより充実させてみませんか。得られるものは計り知れません。辛い時は少しくらい逃げてもいいでしょう。最高の甲南生活を！

保護者から

学び舎にて

池口多喜子

桜の花びらが舞う四月、正門の前で笑顔の写真撮影をした入学式から、あっという間に卒業の日を迎えました。学業と部活動、さらに甲鶴戦、体育祭、文化祭、修学旅行等々、多忙な日々の中、これからの人生について娘は向き合い、自ら考え行動することを体感しました。苦しみもがきながらも、成長できたのは、いつも温かく寄り添い支えて下さった先生方のお陰です。そして、仲間と共に学び過ごしたかけがえのない時間が何より励みになったと思います。

また、ご縁を頂きPTAの役員となり、PTA広報の新聞作りに関わらせて頂きました。学校行事や先生方への取材という貴重な経験をさせて頂き感謝申し上げます。

在校生の皆さん、自分の可能性を信じ、気高く優しく健やかにより高みを目指して高校生活を楽しんでください。

大学入学共通テスト教科分析

1・2年生へ向けて学習のアドバイス

（国語）

問題文が長くなったり、複数の文章を読み比べたりするなど短時間で文章を把握する能力が必要とされている。休日課題や各テストで時間を決めて問題を解く練習をしておくとよい。また、基本事項（古文単語、文法、漢文の句形など）を習得しておくと、古典分野では時間を節約することもでき、確実な得点源となるはず。小テストや定期テストでの基本事項の確認を大切にしてほしい。

（日本史）

ほとんどの生徒によって初見の資・史料の読み取りを必要とする問題が増加し、手間と時間のかかる問題構成となった。多くの問題で基礎的な知識の活用だけでなく、事件の相互の関連や政策の特色などを総合的に考察する力を要する傾向が強くなり、昨年度より難化した。一問一答的な単純な暗記だけでは対応できないため、覚えた知識をストーリーとして〝繋げる〟習慣をつけよう。

（世界史）

思考力を問う（何を問うているか考えさせる）設問、資料分析力を図る設問、文章（資料）読解力を図る設問が多少あるが、全般的にセンター試験のときと同様に基礎知識を身に着けていないと点数は伸びない。教科書・資料集の読み込み、模試等の振り返りでつけた力で十分に対応できるレベルである。

（地理）

分量、難易度とも昨年（第1日程）と大きな変化はなく、大問数は5題、マーク数は1つ減って31であった。出題形式はやや取り組みやすくなったが、資料を組み合わせた問題が多く、解答には時間がかかる。問題内容は昨年同様、「自然環境と災害」、「資源と産業」、「村落・都市と人口」、「地誌（ラテンアメリカ）」、「苫小牧市の地域調査」であった。「資源と産業」は持続可能な資源利用の探究をテーマとし、地誌は二か国の比較、地域調査は課題と解決策などを含み、「思考力」を問う問題が多い。

（倫理・政経）

問題構成は昨年と同様、第1～4問が「倫理」から、第5～7問が「政治・経済」からの抜粋。倫理分野では原典資料が5つ、図版が1つ収録されたが、難易度は昨年と同程度。政経分野では、計算問題や、当てはまるすべてを選ぶ等の組合せ問題のほか、センター試験でよく見られた年代順の問題が復活し、やや難化した。経済分野では、信用創造に基づくバランスシートの変化など、教科書ではあまり見られない分野が出題された。

（数学Ⅰ・A）

昨年の共通テストよりページ数は減少していたが文章量は同程度であり、適切な語句等を選択する問題が減少したことに加え、解答の方針を立てにくい問題が多く時間は足りなかったと思われる。地図アプリや三角比の表からの考察や、グラフの変化の考察、プレゼントの交換の確率など、実生活と関連づけた問題が出題され、難易度は昨年よりも大幅に難化した。各分野毎に本質を理解する必要がある。

（数学Ⅱ・B）

解決過程の振り返りと一般化、数学モデル化を意識した出題が増えているが、昨年度と同様に知識を問う出題も一定数あり、大問、中問単位で、新傾向の問題、従来型に近い問題のすみ分けが行われているようにも感じられる。数学ⅠAと同様、実生活や会話文から問題を読み解く問題が出題された。特に、数列の問題は、文章や図表で与えられた条件を数式化し、問題解決をするという点では思考力を意識した新傾向の出題であり、状況を読み解くまでに時間を要し、多くの受検生を悩ます問題であった。

（物理）

全分野から出題され、複雑な手順の計算をともなう問いが減り、実際にある現象・素材を題材に教科書の基礎基本の内容から考察する問いが多くなっている。図やデータの読み取り、グラフにより変化を表す力が必要であり、一問一答的な知識でなく現象を筋道を立てて論理的に理解しておかなければならない。また、日頃の学習でも、身の回りの事象・現象を物理的・科学的な視点でとらえていくことが必要である。

（化学）

実験を題材にしたグラフの読み解き、問題文の読解、複数の段階で現象を捉える等の思考力や計算力を要する問題が多数出題され、さらに難化した。二次試験レベルの設問も出題された。対策としては、①基礎知識を抜けもれなく身に付けること、②教科書や図説を熟読し、「反応がなぜ起こるのか、現象はどのような原理で起こるのか」ということを説明できるまで理解すること、③計算問題を普段から繰り返して解き、文章を読んだら使用する公式を瞬間的に選択し、素早く代入や計算できるようにすることが必要である。実力考査では上記を踏まえて作問しているので、訂正時は上記①②③が身についているかを確認しながら、不十分なところを把握し、復習をしよう。更に、ブルーバックス等の科学系の新書を読み、読解力を身に付ける実践練習をしよう。

（生物）

予想通り、難化しました。知識を活用して正解を導く問題や、図や問題文で与えられた複数の情報を解釈する問題が多く出題された。対策として、教科書に記載されている知識を覚えるだけでなく、分野どうしのつながりや、身の回りの現象との関連を考える習慣をつけることが必要である。さらに、問題文や、図表やグラフなど多くの情報から必要な情報を読み取る訓練も必須である。

（生物基礎）

昨年と同様、論理的に考える力、グラフを読む力、計算力など多様な科学的思考が問われた。知識のみではなく、知識を活用して判断する必要がある問題がみられた。普段から、教科書の重要用語等は覚えるだけではなく、意味を理解する必要がある。日々題や考査に向けての学習等、覚えていくことも必要ですが、考えることを意識して取り組むこと。

（地学基礎）

教科書に載っている基本的な内容から満遍なく出題された。教科書を読み込み、基礎基本が定着していれば高得点を狙える問題で、計算問題はこれまで解いた問題に類似するものや問題文をよく読めば容易に解答できるものであった。授業に集中して取り組み、テストや模試の訂正を確実に行うこと、教科書の用語をただ覚えるだけではなく「なぜそうなるのか」を考え、理解することを意識して勉強することが大切。教科書を隅々まで読み込み、少しずつこまめに復習して、基礎基本を定着させていこう。

（英語リーディング）

日本文化やアウトドアスポーツに関するブログ、図書館利用に関するポスター、動物園のウェブサイトなど、身近な話題が様々な形式で扱われている。伝記文やリサイクルに関する説明的文章など、700語近い長文も複数出題された。どの問題に関しても、図表やグラフを利用しながらすばやく情報を探し出す力が求められる。日頃から様々な形式の英文に慣れ親しみ、目的に応じた読み方ができるようになることが大切である。

（英語リスニング）

第1問は短いセンテンスを聞き、内容が最も近い選択肢を選ぶ問題。第2・3問は短い対話を聞き、質問に対する答えを選ぶ問題。講義を聞いて要点を整理する問題も出題された。読み上げ回数は、第1・2問が2回、第3問～6問は1回。グラフや表など視覚情報も多く、目的に応じた聞き取りと情報処理能力が問われる。日頃からアメリカ・イギリス英語だけでなく、様々な英語の発音やリズムに慣れておく必要がある。